

令和2年度 江戸川区立鹿骨東小学校 学校関係者評価 報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>○思いやりのある子・・・互いの人格を尊重し、心豊かな子 自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子・・・安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えくふうする子・・・自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子・・・目標をもち、最後までやり遂げる子の育成</p>	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>○笑顔があふれる学校・・・児童が学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校、保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校、教職員が教育者として喜びが味わえる学校を目指します。 ○元気で活気あふれる学校・・・児童が健康・安全・安心にすごせる環境作りと体力向上を目指します。 ○創造力のあふれる学校・・・児童も教職員も学ぶ意欲と創造力をもち、課題に挑む学校を目指します。</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>			
<p><成果>本校の教育全般については、学校評議員・地域関係者・保護者等からおおむね理解を得ることができた。おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができた。江戸川区教育課題実践推進校「読書科」に取り組み探究的な学習の進め方が理解できた。(教師・児童共) <課題>朝読書、補習タイムやほねぶとタイムを日常的に行う体制を整え全校で取り組んでいるが、学力や体力の数値目標が達成できていない。さらに特別支援教育の充実が課題である。</p>			

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議・・・年1回 6年生の体験授業・部活体験の実施連携・・・年1回	児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)9割	B	B	A	コロナ禍においても、工夫し中学校の教員による出前授業が行えたのはよかった。中学校でも同様なことを聞きました。連携は確かなものだと思います。	来年度も新型コロナの影響があることを前提として、小中連携の取組方を事前に計画しておく。
	地域を生かした教育の推進	地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	PTAと協働した鹿骨東ふらさと学習プログラム・・・各学年1回 地域を活用した学習・・・各学年1回 学校応援団の活用	児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童9割	A	A	A	「ふるさと学習」もコロナ禍で行えたことは素晴らしい。地域の人材を活かして学習してもらえることはありがたい。	新型コロナ感染防止の対策をしっかりと、計画的に確実に「ふるさと学習」を行っている。
	環境教育の推進	持続可能な社会を創造することを目指す教育活動の実施	もったいない集会の実施全学年 環境を考える学習・・・各学年1回以上	児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答9割	A	A	A	これからはSDGsを考えた「もったいない」の集会を実施するなど、児童意識を高めることができた。児童ももったいない運動への参加意識は、8割強である。6年生は、SDGsの活動に主体的に取り組んだ。	本年度学習したことを元に来年度は、体系化し、教育課題実践推進校として発表していく。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上 動画による「密」にならない研修	教材提示装置やデジタル教科書の活用を週3日以上実施 ICTツラットと連携した授業、年5回 目的を明確にしたICT教員研修、年3回	学年に応じて、ICTを活用できる児童の割合6割	A	A	A	ICT研修は計画的に実施した。9割以上の児童が各学年の目標を達成している。算数ではプログラミングの研究授業を行い、全教員が理解を深めた。今後は、各教科にプログラミング的思考を育成する内容を取り入れていく必要がある。	プログラミング教育をより一層充実させるために研修を行い、授業に積極的に取り入れている。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	専門員・SC・心理士・巡回指導教員・担任との連携・・・各学期授業参観、随時 授業のユニバーサルデザイン化の推進 個別の教育支援計画・個別指導計画の作成と活用	児童アンケートで学校生活に肯定的な回答8割 学級崩壊なし	A	A	A	アンケートで9割の児童が楽しいと答えていることは素晴らしい。朝も喜んで登校している。感謝。今後も実態把握の努力を続けてほしい。	引き続き各専門家からの指導を受けるとともに、Q-U調査を年2回(1回は学校独自)児童の実態把握に努める。
	教員の授業力の向上	主体的に学び、表現しようとする児童の育成を目指す 「できた」「わかった」が聞こえる授業のフレームづくりを研究する	授業参観、年3回以上計84回以上 研究授業、年6回と事前授業10回 OJT研修、年6回以上	児童アンケートで分かる授業への肯定的な回答8割	A	A	A	全学級で計画的に授業改善に努めている。9割以上の児童が授業が分かりやすいと感じている。算数では、児童の構成を全員が統一することで主体的に学習に取り組み、理解が深まると感じた。	国語科授業研究を中心として、一人ひとりが「授業づくり」を行っている。また、一人一台のタブレット端末を有効に活用していく。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上推進プランの実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善 各学期にペーパーリテラシー診断テスト実施 家庭学習期間の実施、年4回	算数のワークアウトの基礎・基本問題で全国平均以上の回数8割 各学期にペーパーリテラシー診断テスト実施 家庭学習期間の実施、年4回	算数のワークアウトの基礎・基本問題で全国平均以上の回数8割 各学期にペーパーリテラシー診断テスト実施 家庭学習期間の実施、年4回	A	B	A	補習は、各学期年間35回行った。参加した約85%の児童がペーパーリテラシーの得点率がアップした。また、九九マスタを実施することで全校児童が九九の習得に伸び取り取り組むことができた。来年度も引き続き取り組むこと、家庭と協力し学習習慣の確立を図ることでの学力の向上に努める。	授業改善と同時に九九マスタや漢字マスター等を行い、日々の基礎力向上を図る。また、放課後補習も引き続き行ってほしい。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 読書科ノートを活用など、探究活動、探究的な学習の充実 学校図書館を使った授業の充実 教科の中での調べ学習の充実	図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業・・・各学期1回以上(12時間以上) 読書科スーパーバイザー、図書ボランティアの活用による学校図書館の整備の推進 図書館を使った調べ学習コンクールの参加	調べたことを成果物としてまとめられる児童9割 児童アンケートで学校図書館の活用に肯定的な回答9割	B	A	A	新型コロナウィルスの影響で図書ボランティアの活動や調べ学習コンクールへの出品は、昨年度に比べてあまり行つていかなかった。ただし、児童は、昨年度の研究で学んだことを活用して、意欲的に探究活動を行い、まとめることができた。	本に慣れ親しむ大事な部分ですが、この状況の中成果をあげよう頑張らねばと思う。児童の学びへの飢え渴きも感じます。引き続き努力をお願いします。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	計画的に行なうにふさわしい体育の授業の実施 基礎体力向上授業の公開(運動委員会作成) 密にならない大縄大会週間の実施	児童アンケートで、運動を進んでいるに肯定的な回答児童8割 (限定的)新体力テストにおいて、昨年度比が向上した児童9割	A	A	A	コロナ禍で大変な中、よく取り組んでくれたと思う。マスター制度はがんばり方が出る。帽子に付けたバッチもよかった。	課題はマスター等引き続き行ってほしい。また、新型コロナ感染拡大に最大限配慮しつつ体力向上の取組を更に行っていくようにする。
外国語教育の推進	「オリンピック・パラリンピック教育推進プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	「オリンピック・パラリンピック教育推進プラン」に基づく授業、35時間 オリパラコーナーの工夫・充実、年3回以上更新	児童アンケートでやり遂げた喜び・将来への夢や希望に肯定的な回答9割 オリンピック・パラリンピックに興味・関心が高まった児童9割	児童アンケートで肯定的な回答9割 オリンピック・パラリンピックに興味・関心が高まった児童9割	B	B	B	オリパラは、コロナの影響が大きいので仕方がないと思う。残念ですがこれも児童にとって一生の思い出かもしれない。	オリンピック・パラリンピックの開催年であるので、それを活かしながら状況に応じて最大限の活動を行っていく。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	昼休みににおけるハロータイム(英語遊び)の活用 外国語専門講師との緊密な連携	児童アンケートで英語の学習が楽しいと答える児童9割	A	B	B	昼休みのハロータイムの活用により低学年からの楽しみも楽しめ、必要かもしれない。いずれ児童達は英語が必要になると思います。頑張って教えてください。いかに英語に対する興味をもたせるかと思う。	昼休みのハロータイムは継続して行っており、さらに、ALTと外国語講師との連携をより緊密にさせ、授業改善を図っていく。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チャイルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 生活習慣の向上・情報モラル意識の向上	Q-Uの実施・・・年間2回(1回は学校独自調査) いじめ未然防止授業・・・各学期1回以上 いじめ防止「東くっ行動宣言」の作成掲示・・・通年 SOSの出し方指導・・・5年生年1回 校長講話・・・年3回 児童アンケート・・・年3回 生活指導夕会による情報共有・・・毎週金曜日 カーがセラの全員面接・・・全学年 SSWの活用・・・全学年 「学級SNSグループ」「東小子どもメールブック」「東小家庭学習の手引き」「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用・・・年4回 情報モラルについての学習・・・各学年1回以上 学年単位の挨拶運動・・・年6回以上	学校満足度調査(Q-U)による満足群の割合が全国平均を超える学級9割 いじめの早期解決 継続0% 不登校継続数昨年度比減少	A	A	A	Q-Uは、2学期末に調査を増やし、1回目の調査からの推移を分析することでクラスの実態をより正確に把握することができるようになった。その他取組も計画通り行った。その成果として、いじめを早期発見し、指導解決することができた。(全学級)また、Q-U調査の結果、学校満足群の割合が9割に満たない学級が学級であったものの、昨年度の7学級より減少させたことができた。さらにタブレットPCを活用することによって、不登校児童が登校できるようになってきた。今後も生活指導部を中心組織的に活動していく。	いじめはあらゆるものだと考え、いかに早く発見できるか、的確な対応ができるかが大切。我々も全員で見て対応していきたい。 不登校は家の事情も大きいですが、授業に興味があれば最高です。 いじめと不登校への早期の対策(解決)は大変重要だと思います。 学校のイメージを悪くする。いじめられている子の気持ちを考え早い対応が必要。
働き方改革の推進	計画に基づいた職務遂行	勤務時間外労働時間の減少	スクールサポートスタッフの有効活用・・・随時 一斉定時退勤日の実施・・・月1回 諸会議の精選	各月連続の務時間外労働時間45時間以上の教職員0%	A	B	B	勤務時間と先生の熟悉が大切だと思います。改革は一学校で行うのではなく、もっと上レベルからシステム的に実施してほしいと思います。仕事は生かすために働くので、仕事のために生きるのではない。工夫、視点を変えて考えれば意外とできる。PTA活動が土日もあり申し取れない。	会議や資料作成で計画的な業務遂行を行っている。スクールサポートスタッフの活用も積極的に進めている。